

COIL 型英語教育の実証研究

—Web 会議システム ZOOM と BYOD の活用—

安西弥生

国際基督教大学/教育テスト研究センター

文部科学省では更なる国際化を推し進めるために COIL 型 (Collaborative Online International Learning) 授業の助成を行い、国際化を推進している。しかし、遠隔教育の環境が整い、オンライン遠隔教育を実施できる大学も一部の大学に止まっており、実践したいすべての教員が実施できるわけではない。そこで本稿では、据え置き型の遠隔会議システムでなく、Web 会議システムである ZOOM を使い、且つ学習者の機器を活用した BYOD (Bring Your Own Device) の学習環境で、オンライン遠隔教育が学習者の認知にどのような影響を与えるのか、実証実験を行った。実験は、2018 年秋に 60 名の大学生を対象とし、30 名をパソコン群、30 名をスマホ群とした。実験ではオーストラリアの大学生 1 名がシドニーからと、オーストラリア人の若手研究者 1 名が京都から参加し、クリスマスなどについてのディスカッションを英語教員と行った。その後、実験参加者との質疑応答を行った。物理的距離感、コミュニケーション意欲、BYOD との親和性の認知について検証を行った。事前事後の統計的比較の結果、オーストラリアとの距離感は近づく傾向があり、コミュニケーション意欲が高まり、BYOD の親和性が高まること明らかになった。

キーワード：COIL 型教育、遠隔教育、英語教育、BYOD、ZOOM